

2025年8月1日

## 神戸学園都市 YMCA こども園 8月えんだより

8月の聖句「わたしの名によって集まるところには、

私もその中にいるのである。」

マタイによる福音書 18章20節

2025年の近畿地方の梅雨入りは6月9日頃と例年より少し遅く、梅雨明けは6月27日頃とかなり早かったようです。梅雨明け後も降水量が少なくなっており、丹波市の市民プールでは、水不足のためわずか3日で営業停止となり、子どもたちの夏休みの大きな楽しみが奪われてしまいました。今まで私たちが経験したことのないような厳しい暑さが続いています。少しでも涼しく過ごせるように、わすかですが水遊びを楽しみつつ毎日を送りたいと思います。

「戦後80年」様々な機会にこの言葉を耳にすることが多くなっています。もう半世紀以上前になりますが、小学校に入るか入らないかの子どもの頃、親に連れられて近くの市場に行くと、市場の通りの真ん中で「お恵み」を求めている白装束で片足がなく、軍隊の帽子をかぶった中年のおじさんの姿をよく見かけました。当時は「戦後20年」余りの時代。戦争で片足を失った元軍人が、生きていくために街ゆく人々の中で「物乞い」をしていたのです。時代的には偽物も存在していたようですが、我が子が戦死した親たちが、我が子の姿とダブらせてお金を出すことも多かったそうです。終戦時に小学生で、高松市の郊外に住んでいた母親から、米軍機が飛来して機銃掃射にあった話や、高松の街が空襲で焼かれ、空が真っ赤だったといった話を何度か聞いたことがあります。その母親も90歳を超えました。軍人、軍属、民間人、合わせて約310万人もの死者を出し、多くの街が焼け野原となった戦争がこの国であったことが忘れられてしまうのではないかと思います。「戦争は絶対にあかん。」「2度と戦争をしてはいけない。」力強くこのような言葉を発するのは、実際に戦争を経験した方々ですが、そのような声が、時代の流れと共にどんどん少なくなっています。一方で、今この時も戦禍の中にあり、命の危険にさらされている人々が多くいるという情報を毎日のように目にします。今一度、戦争を体験した人々と共に、今を生きる私たちが次代を生きる子どもたちのためにも「戦争は絶対にあかん！」と声を上げなければと思います。

ひとりひとりの声は、小さなものかもしれませんが、多くの声が集まればきっと大きな声になることを信じ、そして、その中に神様が共にいてくださることを信じて…。

「神様、私たち、そして未来の子どもたちからすべてのものを奪ってしまう愚かな戦争を繰り返さないように、私たちに知恵と力をお与えください。」

子どもたちの希望ある未来を守るためにも、この祈りを一人でも多くの人々と共に捧げつつ、毎日の歩みを続けていきたいと思っています。

8月	乳児 (0,1,2歳児)	幼児 (3,4,5歳児)
月主題	ゆったりと	祈りの中で／祈りあう
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>まわりの人に愛され、神さまに守られていることを感じる</li> <li>家族や保育者、友だちとゆったりと過ごし、心が満たされる</li> <li>いろいろなものに触れ、五感で感じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>神さまに感謝し、神さまの創られた世界や神さまが私たちに与えて下さっている人を大切にできるよう祈りあう</li> <li>いつもとは違うゆったりとした環境の中で、異年齢の関わりや好きなあそびを通して思いが広がる</li> <li>夏から秋への風や光の変化を五感で感じて過ごす</li> </ul>
讃美歌	「ちから」 幼児讃美歌Ⅱ15	「ちいさいひつじが」 こども改55